

東京鷹桜同窓会報



文教の杜「ながい」長沼孝三彫塑館(長井市)

巻頭の言葉

丸 川 毅

東京鷹桜同窓会副会長
㈱協和エクシオ 部長



私が東京鷹桜同窓会と出会ったのは、学年幹事に指名されていることも知らずに学年幹事会の案内を受け参加したのが初めて、同会のことをよく理解していない当時のことですが、そのころ役員の方々の先輩諸兄は私事をさて置き同会のために努力されていたことを覚えております。同会は長井中学、長井高女、長井南、長井北、長井高校の卒業生による東京首都圏在住者で組織され、会員数も三千名を超える大組織で、年1回総会・懇親会及び会報の発行等により親睦を計っていることは皆様ご存知のとおりであります。

総会・懇親会は担当学年幹事及び事務局で会員の皆様に感動を与える企画を練り参加をお待ちしております。総会・懇親会に参加して楽しいこと、嬉しいことは「懐しい同級生、恩師、先輩後輩に会い旧交を暖め近況を語らい昔話に花を咲かせること」にあると思います。この会での出会いを人生の1頁に加えていただければ幸いです。会報の「わが道を行く」「あのひとこのひと」の企画は各界で活躍されている同窓生を紹介しているもので、同窓生として誇りに思います。皆様からの推薦もお待ちしております。(昭和31年卒)

わが道を行く



文学から出版道へ

丸 川 満

(株)愛智出版社長



蚕桑中学三年の6月、私の実家が火災に遭い全焼した。原因は不明であったが、すべて灰と化してしまった。呆然とする私に“申し訳ないことをした。堪忍な”と耳元で謝る母の声を今でも忘れられない。

高校進学も経済的にどうなるか不安な状況であったが、東本願寺の奨学金を戴き、日本育英会の特別奨学金を貸与されることになり、昭和36年4月、何とか長井高校に入学することが出来た。

高校では、なり手がない図書委員となり、また文芸部に入ったのだが、これは中学時代の恩師の国語の先生、吉田秀先生（長井市在住）の影響が大であったからだと思う。ともあれ国語（文学）に魅力を感じ始めた私は、読書の傍ら文芸部の雑誌「せきれい」と詩集「カトレア」を編集することになり、またそれまでは無きに等しかった図書委員活動を開始し、僭越ながら私が命名させていただいた図書館新聞「リーディングタイムズ」も創刊された。当時、列車の都合で7時半前に学校に着いた私は、まず事務室に行って鍵を受取り、図書館をすぐに開放し、夏目漱石や寺田寅彦などの作品にかじりついた。このように自由で有意義な高校生活を送れたのは、当時図書館司書であられた波多野純子先生、図書館長の後藤秀夫先生の御陰と心から感謝している。この図書委員および文芸部員としての活動が、その後の私の出版道の原点になったことは疑いのない事実である。そして、人間が人間らしく生きるために何をなすべきか、価値ある生き方とは何か、それを探るために文学は存在するのではないか、大学に入って深く学んでみたい、という意識を持って、昭和39年の春、私は上京した。

経済的見通しがなかったので国立大学を受験したが、見事に失敗した。東京の右も左もわからない状態で、兄の下宿先に数日世話になった後、自らが生きてゆくために私は読売新聞の販売店で住込みで働き始めたが、とても受験どころではな

かった。無我夢中で仕事を覚えながら、駿台予備校に通うことになった。販売店にはかなり変わった連中もいたが、所長をはじめ学生も何人かいて、私は働きながら大学に行けることを体験的に学んだ。しかし勉強時間は思うようにならず、国立大学志望から試験科目の少ない私立大学志望へと変更せざるを得なかった。貯金も少なく無駄は出来なかったのも、ただ一校のみ受験した。そして昭和40年4月、私は法政大学文学部日本文学科に入学したのだが、朝日新聞の奨学制度を知り、港区の高輪にある朝日新聞販売店でお世話になった。想えば、私は高校時代から経済的に独立した訳だが、人生の糧となっている様々な経験を積むことが出来たことを今ではむしろ嬉しく思っている。

朝刊を配達して、食事を済ますと大学へ行ったが、最初に必ず足を運んだ所があった。今では取り壊されてしまったが、構内の片隅に六角校舎という建物があって、その3階の国文学会学生委員会室であった。そこは、小田切秀雄教授が戦時中に反戦の旗を築いた所であった。入学してから友人と早くから顔を出すようになり、数ヶ月後には編集委員長に就任し、学術誌「法政日本文学」と情報誌「学生委員会ニュース」の編集・発行を手掛けた。間もなくして学生運動が激しさを増し、中核・革マルなどのヘルメットを被った集団が角材を持ってキャンパス内をデモし、机や椅子でバリケードが築かれ、時々火炎ビンも頭上から降って来ては炸裂した。その頃、5人の友人と同人誌「文学とマルキシズム」を創刊したが、学生運動の喧騒の中、第2号は立ち消えとなった。三年の時はゼミの運営委員となり、四年の時は卒論に没頭した。「宮沢賢治論」を書き上げたが、思想家としての人間像を強く意識したものになった。

根っからの本好きになっていた私は、昭和44年3月に大学を卒業し、迷わず出版道に進み学術書出版のA社に入社した。23年半勤め、平成4年に独立したが、商業主義に毒されず、一冊入魂、価値ある本を世に送り出したいと思う。(昭和39年卒)

先生お元気ですか

老教師の繰り言

大場小十郎 先生

(英語)



同窓生の皆さんお褒りなく各方面で御活躍のこととお喜び申し上げます。この度図らずも編集委員から投稿の依頼があり、老齢の為固辞致しましたがたつてのこととペンをとりました。私は昭和48年に退職するまで本校に22年間勤務しましたが復員後の勤務でしたのでもう85年を生きてきたことになります。退職後10年位は元気で部落の世話役に従事しましたが歳相応に老いてきましたので成人病と仲よくつきあいながら閑居して居ります。諸会合にも欠席していますので世事にうとくなり、記憶も薄らいできましたので投稿にはふさわしくないと思いながらも思い出すままにペンをとり、責を果たさせていたゞきます。在職中ずっと同窓会の事務を担当していましたので東京支部の総会には同窓会長長沼惣右エ門氏のお伴で度々参加する機会がありました。専ら学校の記念行事の募金お願いの趣意書の運び役だったと思います。当時の支部は山形と東京だけだったと思います。当時長井の本部の総会は、殆ど役員だけの総会で済まなければならない事情でしたので東京の長沼支部長を中心とした多士済々の百名を越す盛会には只只驚嘆の目をみはるばかりで、出席をふやすにはそれ相当の御苦労はあったようですが、長井の本部の今日の市町村毎の支部を設ける発想は想像だけに出来ませんでした。私は本校卒業生でもあり、戦時中昭和17-18年非常勤講師の経歴もあり、支部の出席者も旧制中学の同窓生でしたので談論風発の盛り上がりだったと思います。南北統合後の東京鷹桜同窓会の尚一層の盛り上がりはさぞかしと推察申し上げます。音楽部の生徒の吹き込んだ校歌のテープを持参したり、今も続いている卒業生への記念品の文鎮を長沼孝三氏へデザインをお願いする為帽子の校章を持参したことなど懐かしく思い出します。

最後に東京支部の会員皆様の御健勝と御会の御発展を心よりお祈り申し上げます。(昭和6年卒)

鈴木千代志 先生

(生物)



東京鷹桜同窓会の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。私が長井高にお世話になりましたのは東京オリンピックのあった1964年から'79年までです。長井高での懐かしい思い出はゴマンとありますが、紙数の都合で割愛いたします。

新採で自由な校風の長井高に赴任できたこと、優秀な生徒や先輩たちに巡り会えたことは幸運の一語に尽きます。長老格の先生方はじめ、諸先生方はそれぞれにみな風格があり個性の人でした。そのころ独身者が確か十数名もいて、中でも私はずいぶん小生意気でしたが、そんな若僧を受容し自由に泳がせる鷹揚さを先輩たちはお持ちでした。「能別」など難しい問題に新しい発想で果敢に取り組み、熱っぽく討論する自由な雰囲気がありましたし、放課後には有志が『エミール』(ルソー)などの読書会を開いていて、末席にいた私は先輩方の自由な発想や視点の多様さに眼を見張りました。'79年春に山形市の高校に転勤し、現在は山形工業高等学校に勤務するかたわら、ボランティア活動に関わり、荒廃したカンボジアの農村や中国東北部(旧満州)、香港、ハワイなどを観光とは違った視点から視察したり、電話相談を受けたりしております。

学校で教師が直面する問題が多様化し、学校の枠内での解決が難しいケースが増えつつあるいま、ボランティアを通して実社会から学ぶことは私にとって新鮮な知的栄養であり、生きた教材にもなっています。まさに「情けは人の為ならず」を実感しているわけです。

自由な校風をもつ長井高での体験、これが私の教育の原点です。早苗が原で生徒たちや師友に学んだ「自由な発想」と「複眼的な思考」の大切さを胸にして残り少ない教師業を全うしたい、こう願いながら近況報告といたします。

東京鷹桜同窓会の会員の皆様の平安と更なるご活躍をお祈りいたします。(1997.8.22)

あ の ひ と ・ こ の ひ と



紅顔の美少年美少女の頃に

思いを馳せて



長谷部 國於

49年卒の遠藤剛君から突然に会報原稿依頼の電話。「遠藤です。先生、わかりますか。」の問い掛けに急いで25年前の長井高校時代に思いを馳せるものの、長い空白を超えて瞬時に思い起こすのは至難の技になり愕然としました。プラスバンドで頑張っていたあの遠藤君、否々、あの色白で体格の良い柔道部で活躍していた遠藤君、様々な遠藤君像が目の前をよぎり、いよいよ老化現象が始まったかな、と落ち込んでしまうこの頃です。

二週間程前に、長井高校勤務最後の担任学年の同級会が上山温泉で開かれました。別用で泊続きの三日目の案内でしたが、40才にもなった皆さんの姿を楽しみにして久しぶりにいそいそと馳せ参じました。名前と顔が一致するだろうか多少の不安を感じながらの参会でしたが、高校時代の面影は消えないものです。それぞれの世界で活躍しており、それなりの顔になってはいるものの、紅顔の高校生であったあの頃の純な輝きが相変わらずに残っていて、安堵と懐しさの中に楽しいひと時を過ごしました。

同窓会や同級会というのは、同時代を共有してきた諸々のことを確認し合う場であり、同時に、これまで生きてきたあかしをお互いに喜び合って明日へのエネルギーを充電する貴重な機会でもあるように思われます。

来たる11月8日の東京鷹桜同窓会の開催を心からお祝い申し上げますとともに、日程が許せば、是非に参加させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(昭和31年卒)

多くの方々のご恩に

感謝しつつ



赤堀 綾子

「何かお探し？」英語だ！ 振り向くと見上げんばかりの若い西洋人。「サンドイッチ用のパンはどこですか。」主人の転勤で南米カラカスに着いて間もない私とコロンビア生まれのアメリカ人マルゴとの出会いだった。「遊びにいらして。」「ええ。」

2、3日後その事件は起きた。パターンとドアが風でロックされてしまった。エプロン姿でゴミバケツを抱えた私は茫然とした。一文なし、日本人なし、電話番号なし、スペイン語駄目。ああ。

マルゴだ！ 助かった。彼女は飛行場を見下ろす気持ちのいいペントハウス（最上階）に快く私を迎えてくれた。メモを玄関に貼って彼女の家にもどり主人の帰りを待った。その後彼女の友人達とも親しくなりお茶やパーティで色々の国の文化に触れ楽しい交流ができた。

悲しいことに今彼女の消息は分らない。5年後帰国する頃彼女は事情あって働きに出、他の人達と会うこともなくなっていた。ずっと欲しがっていた志野の皿と観葉植物を記念に残し、「新しい住所が分らないの。手紙を書くわ。」そう言って別れた。帰国してみると六年と四年の息子を日本の教育のルールに乗せるのは想像以上に変だだった。主人も留守、とにかく必死だった。少し落ち着いて手紙を出したところ消息不明……。

今私は横浜市の国際交流協会の中のボランティア団体の一員として英語と西語で来日間もない外国人の方のお手伝いをしています。マルゴや多くの方々のことを思いながら。そして又大勢の先生方のご恩に感謝しごぶさたを申しわけなく思いつつ若い生徒達の学力向上と夢実現のために微力ながら共に学んでおります。皆様ご自愛下さい。

(昭和35年卒)

三一会報告

沓澤 昇

㈱レナウン 東京商品センター 副所長

私達昭和三十一年長井南高・北高の卒業生は「三一会」の名のもとに、二年毎に東京と長井で交互に同期会を開いている。今回は東京側が幹事で、昨年七月二十日に東京芝の日赤会館で開催した。前回で五回目であり、回も重ねれば幹事諸氏の役回りも定まり、準備作業も順調に進んだ。準備作業でも会場の決定は幹事泣かせの感があるが、今回は日本赤十字社勤務の小形君の計らいですんなり決まった。

当日は孫田昭一先生、菅間誠一先生のご来駕を仰ぎ（高橋正夫先生は欠席）同期生も五十名の参加となった。南高三十二名、北高十八名で、このうち東京地元組三十二名、長井方面組が十二名、それ以外の遠方組が五名であった。遠方組では、曾根田君が福岡県から、奥村（金原）さんは富山県から、飯沢君は長野オリンピックの仕事を放り投げて長野から等々。

宴会は代表幹事の丸川君の挨拶に始まり、ご来駕の両先生の挨拶でスタートしたが、この度目出度く母校長井高校の校長となった小林君にも、特別に挨拶を許した（お願いした?）。宴会も最初のうちは閑々と進んだが、カラオケが始まる頃とも



なれば、いよいよ盛り上がり、司会者が閉会宣言を発するタイミングをなかなかつかめないほどの盛況であった。閉会后、飲み足らず組、歌い足らず組の諸君は新橋方面に繰り出したようだ。

翌二十一日は朝食後解散の予定であったが、朝からあいにくの大雨で遠征組は東京見物の予定を中止し、十時頃まで宿でおしゃべりをし、名残を惜しんで散会とした。

次回の三一会は、来年長井での開催となる。同期の諸氏は今年から来年にかけて還暦を迎え、人生の節目を通過することとなる。ハッピーリタイアを果たした同輩がさぞや大勢参加することとなるだろう。今から楽しみである。盛会を祈る。

長沼孝三彫塑館のご案内

東京鷹桜同窓会の初代会長を務められた、故長沼孝三先生の彫塑館が長井市十日町にオープンしているのを御存知の方も多と思います。

今回、同館を見学しまして表紙の写真の撮影もしてまいりました。そこで改めて皆様に御紹介と御案内をさせていただきたいと思っております。

まず場所は長井市十日町、旧長井北高や、長井税務署の近くです。開館時間は10:00から16:30まで、月曜と月末日がお休みとなります。入館料は一般300円・高校生200円・小中学生100円となっております。電話は、0238-88-4151です。

彫塑館自体が、長沼先生の生家である丸大屋敷の一角に建てられており、その御屋敷全体が古き良き文化の香りが溢れている様な感じがします。

丸大屋敷は約300年前位に最上川の舟運が栄えた頃からの商家であり、反物などを扱っていたとの事です。



彫塑館とは庭続きであり、往時の商家の生活が想像できる展示となっております。

彫塑館は2階建、延床面積407㎡であり、長沼先生の生き方と数々の作品を通じて、見る者に語りかけてくる様な気さえいたします。

話には聞いていても、まだ見学なさった事のない方、帰郷の折には是非足を伸ばされてはいかがでしょうか。

◇事務局からのお知らせ◇

(1) 活動報告 (平成 8 年分)

- 5 月 事務局会議
 6 月 学年幹事会 (も一吉) 名簿補足作業依頼
 7 月 会報編集会議
 8 月 事務局会議 (名簿整理)
 9 月 案内状送付 (も一吉) 役員・学年幹事・事務局にて総会最終打合せ
 10 月 総会 (銀座アスター) 180 名超の参加

活動報告 (平成 9 年分)

- 1 月 反省会・新年会 (役員・学年幹事他)
 4 月 事務局会議
 6 月 本部役員会 (会長出席)
 7 月 本部総会 高橋正二前会長功労賞受賞 事務局長出席
 8 月 事務局会議 (名簿整理) 学年幹事会 (神楽坂エミール)
 9 月 事務局打合せ・会報編集会議

(2) 平成 8 年度会計報告 (平成 9 年 3 月 31 日現在)

＜収入＞		＜支出＞	
前年度繰越金	758,936	総会費	923,447
年会費	1,312,400	事務費	279,082
総会費	966,000	会議費	290,730
役員・幹事会費	207,000	印刷費	363,428
御祝金	50,000	通信費	396,949
受取利息	1,632	本部協力金	50,000
		交際費	10,000
計	3,295,968	計	2,313,636
次期繰越金	982,332		

(3) 平成 9 年度総会担当学年代表

本担当／昭和 46 年卒	安部俊彦・森田光雄 小野ひで・森淳子
準担当／昭和 31 年卒	丸川毅・菅野清子 大谷礼子

<事務局長より>

平成 8 年度総会は、180 名上の参加をみて、近年

稀にみる盛会となりました。新会長のもと初総会としては上々の滑り出しが出来ました。又、事務局費の収入も例年の 3 割増となり、これも偏に学年幹事各位の名簿の見直し作業他、献身的な協力の賜と感謝申し上げます。

又、高橋正二前会長が平成 9 年度の本部総会にて、長年の功績を認められ、功労賞を受賞されました。当東京鷹桜同窓会会員全員の喜びとして御報告申し上げます。

“ずくだれ”事務局の悩みを聞いて下さい。今、事務局のメンバーは 44 年卒 3 名、45 年卒 2 名、46 年卒 3 名、49 年卒 3 名の計 11 名です。全員 42 才から 47 才です。当同窓会の中では絶壁の世代であり、この下の世代はほとんど参加がありません。この会報を御覧になった方は、是非若い世代の掘り起こしに御協力下さい。

事務局のモットーは“おもっしゃがって、うめえ酒のむべ”です。“しゃえっこなし”がないと会が維持できません。事務局のお手伝い制度を設けて多くの参加ををいただきたいと考えております。昨年度のアンケートで「たいした努力もしないで、切り捨てるとは何事だ。」とのお叱りの声がありました。又、「盛会を祈念しながら、出席出来そうもないので、これ以降の案内不要。」との言葉も多くございました。

集計の結果、案内不要が 700 名弱となりました。事務局の本意は、2000 名以上のスリーピングメンバーの掘り起こしにあります。スリム化が本意ではありません。

是非、御理解をいただいて、健全に会が発展します様、御意見・御協力をお願いいたします。

◇編集後記◇ 今回より、昭和 46 年卒の江原明子さんに会報編集に参加していただきました。また長沼先生の彫塑館を会報掲載を目的として見学いたしました。今後いろいろな試みを少しずつやっていきたいと考えております。

多くの皆さんの御協力をお願いします。